

# 第4学年国語科学習指導案

## 1 単元名 人物の気持ちの動きを「ごんぎつね」

### 2 単元の展開にあたって

#### — 教材のよさ —

この教材は、ひとりぼっちの小ぎつねのごんが、自分と同じ境遇になった兵十に、自分の存在を認めてもらおうとする一生懸命な姿、ひとりぼっちのさびしさを描いた作品である。作品は6つの場面から構成されている。1の場面は、語り手である「わたし」が小さい頃に聞いた話を述べている冒頭文から始まり、5の場面までが主人公であるごんの気持ちの動きを中心に展開されていく。最後の6の場面ではごんの心が兵十の視点から描かれしめくくられている。何とかして自分の存在を気付いてほしいと願うごんの一途な姿を通して、「ごんのひとりぼっちのさびしさ」を読み取り、この話が語り継がれてきた意味や人と人がつながりたいという思いについて考えることができるという点からも、意義深い学習になると考える。

文章上の特徴としては、文末表現の工夫、呼称の変化による表現の工夫、類縁語や指示語の工夫があり、それらの読み方を身に付けさせるのに適した教材であるといえる。また、ごんの心内語が数多くあり、気持ちを読み取る箇所として見つけやすいため、一人一人が自分なりの読みをもち、その読みを共通点、相違点をはっきりさせて交流することで、伝え合う力も身に付いていくと考える。

#### — 学年の子どもの実態 —

本学年の子どもたちは、1学期に「三つのお願い」「白いぼうし」の学習を通して、人物の気持ちや人柄を読み取る学習をしている。その際、場面ごとにとらえ、中心になる文やことばをもとに想像して読んできている。読みの個人差が大きいため、音読を重視して朝の音読タイム等を活用し、まずはどの子もすらすら読めるようになり繰り返し練習をしている。音読をくり返したことにより、ことばに着目して読むことができるようになってきている。しかし、叙述に即した読みではなく独りよがりな読みになっていることも多く、書き込みはできているが、何でそう書いたのか叙述に立ち止まって考えを書いている子は多くない。

また、自分の考えを發表したいという気持ちはあるものの、筋道立てて話したり、根拠をはっきりさせて話したりすることが十分でない子どもも少なくない。そこで、發表カードを使って、自分の考えを發表するようにしたことで、自信をもって發表することができるようになってきている。しかし、自分の考えの出し合いだけに終わってしまい、互いの考えの共通点や相違点をはっきりさせた話し合いにはまだ、至っていない。

#### — 学習内容と指導・支援の考え方 —

本単元の指導にあたっては、かまえる段階では、題名から考えたことや疑問に思ったことと冒頭をつないで、語り手がどうしても伝えたいごんぎつねの話があるということに気付かせ、読みのめあてを考える。次に、読みのめあてに沿って全文を読み通し、語り手の心に残っているのは何か書きまとめさせ、交流する。そして、どのことばや文から何を読み確かめていけばよいかを考えて学習計画を立てる。

深める段階では、学習計画をもとに、場面ごとにごんの言動をもとに気持ちをくわしく読み取っていく中で、ごんのひとりぼっちのさびしさの中身を読み確かめていく。

場面ごとの読み取りにおいては、音読を取り入れるとともに、心内語や指示語、文末表現などに着目した読み取り方の例示を行い、どの子も自分なりの読み取りと書き込みができるようにする。そして、話し合いにおいては、相違点や共通点を明確にした上でグループ交流を取り入れて読みを深めていく。また、ごんと兵十の関係を上下に表し、それが近づいていく様子を線でつなぎ、視覚的にとらえられるように板書を工夫していく。

まとめる段階においては、これまでの学習を振り返り、題名と冒頭にもどってごんのさびしさを書きまとめさせる。

### 3 単元の目標

- 心内語、指示語、文末表現に着目したり、場面と場面のつながりに気を付けたりして読み、自分の存在を認めてもらおうとするごんの姿や、その奥にあるごんのひとりぼっちのさびしさを読み取ることができる。
- ◎ 兵十に対するごんの思いを、根拠となる叙述とつないで書きまとめ、互いの考えの共通点・相違点に気を付けながら進んで話し合うことができる。

4 学習計画（全15時間）

段階 時間	主な学習活動と内容	指導上の留意点（※伝え合う力を育てる支援）
	1 本時のめあてを確認する。	○ これまでの物語文の学習をふり返りながら、学習の見直しをもたせる。
	題名と冒頭から、読みのめあてをつくろう。	
	1 / 15 2 題名から考えたことや疑問に思ったことを出し合う。 3 題名から考えたことや疑問に思ったことと冒頭をつないで、読みのめあてを考える。	○ 「ごんぎつね」から受けるイメージをもとに話し合わせる。 ※ 語り手が小さい頃に聞いた話なのに今でも覚えていることに着目させグループで話し合わせる。
読みのめあて ○ 「ごんぎつね」は、どんな話なのだろう。 ○ 語り手の心に残っているのは、「ごんぎつね」の何なのだろう。		
か ま え る	1 本時のめあてを確認する。	
	全文を読み、読みのめあての答えを書こう。	
	2 / 15 2 全文の範読を聞く。 3 音読の練習をする。 4 読みのめあての答えを書きまとめる。	○ 範読をする際に、意味の分からない言葉の説明を教科書の注や写真を使って説明する。 ○ 挿し絵をもとに簡単なあらすじをおさえた後に、一人一人にあらすじを書かせる。 ※ 「語り手の心に残っているのはごんの～」という書き出しを与え、めあての答えを書かせる。
	1 本時のめあてを確認する。	
	読みのめあての答えを話し合って、学習計画を立てよう。	
	2 読みのめあての答えを交流し、共通点や相違点、曖昧な点を明らかにする。	○ 答えの違いや傾向を把握しておき、話し合いの計画を立てておく。
予想される読みのめあての答え 語り手の心に残っているのは、兵十に自分のことを知ってほしいと思う、ごんのひとりぼっちのさびしさ		
3 何をもとに読み確かめていくか、各場面ごとに中心文を決め、学習計画を立てる。	○ 読みのめあての答えの違いを、根拠になった文の違いとつないで話し合わせる。	
読み確かめる視点 ○ 夜でも昼でもいたずらばかりしているごんの気持ち ○ うなぎのいたずらを後悔するごんの気持ち ○ 何日も何日も償いをくり返すごんの気持ち ○ くりや松たけを持っていっているのが神様だと言われ、引き合わないなあと言っているごんの気持ち ○ ぐったりと目をつぶったままうなずいたごんの気持ち		

5 ・ 6 / 15	1 本時のめあてを確認する。	○ 学習計画表で本時のめあてを意識付ける。
	<p>ごんがどんな気持ちで夜でも昼でもいたずらばかりしているのか考え、ごんのひとりぼっちのさびしさを読み確かめよう。</p>	
	2 1の場面を音読する。	○ 音読で本時の学習場面を確認する。
	3 ごんがどんな気持ちでいたずらをしたのかを考えて、発表カードに書き込む。	※ 「いもをほるだったら～だけれど、ほり散らかすだから・・・」というように例示し、ことばを比べて書くことができるようにする。
	4 書き込んだことをもとに、話し合う。 (1) くり返し書かれているいたずらについて話し合う。 (2) いたずらとひとりぼっちのさびしさをつないで話し合う。	○ ごんのいたずらと、ごんの紹介の文をつないで、ごんの気持ちを発表カードに書かせる。 ※ ごんがどんな気持ちでいたずらをしてきたのかを、読み取りの違いを生かしてグループで交流させていく。
5 本時学習のまとめをする。	○ ごんのいたずらを、村人の立場からとらえさせ、どれだけ困ることなのか気付かせる。	
ふ か め る	1 本時のめあてを確認する。	○ 学習計画表で本時のめあてを意識づける。
	<p>ごんがどんな気持ちでうなぎのいたずらを後悔しているか考え、ごんのひとりぼっちのさびしさを読み確かめよう。</p>	
	2 2の場面を音読する。	○ 音読で本時の学習場面を確認する。
	3 ごんがどんな気持ちでうなぎのいたずらを後悔しているかを考えて、発表カードに書き込む。	※ 「おっかあ」や「ちがいない」のくり返しに音読を生かして気付かせ、今までのいたずらと違って、どうしてうなぎのいたずらだけを後悔しているのか考えさせて、発表カードに書かせる。
	4 書き込んだことをもとに、話し合う。 (1) 兵十のおっかあの死と自分のいたずらを結びつけているごんについて話し合う。 (2) いたずらとひとりぼっちのさびしさをつないで話し合う。	※ 「しなけりゃよかった」の叙述をもとに、ごんの気持ちについてグループで交流させていく。 ○ 「兵十のおっかあは～」の文を音読させ、自分の読みを表現させる。
5 本時学習のまとめをする。		
9 ・ 10 / 15	1 本時のめあてを確認する。	○ 学習計画表で本時のめあてを意識付ける。
	<p>ごんがどんな気持ちで何日も何日もつぐないを続けたのか考え、ごんのひとりぼっちのさびしさを読み確かめよう。</p>	
	2 3の場面を音読する。	○ 音読で本時の学習場面を確認する。
	3 ごんがどんな気持ちで何日も何日も償いを続けたのかを考えて、発表カードに書き込む。	※ 「～ひとりぼっちの兵十か。」「次の日も、その次の日も～」の文に着目させ、ごんの気持ちを発表カードに書かせる。
	4 書き込んだことをもとに、話し合う。 (1) 「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」と言ったときのごんの思いを話し合う。	※ 「持ってきてやりました」と、「うちへ行きました」の叙述を比べ、その2つの気持ちが同じなのか違うのかをグループで交流させていく。
一 組 本 時		

		(2) 兵十に何度も何度もくりや松たけを持っていったごんの思いを話し合う。	○ 「次の日も、その次の日も～」の文を音読させ、自分の読みを表現させる。
		5 本時学習のまとめをする。	
		1 本時のめあてを確認する。	○ 学習計画表で本時のめあてを意識付ける。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ごんがどんな気持ちで「引き合わないなあ。」と言っているのか考え、ごんのひとりぼっちなさびしさを読み確かめよう。</p> </div>	
		12 2 4・5の場面を音読する。	○ 音読で本時の学習場面を確認する。
		15 3 ごんがどんな気持ちで「引き合わないなあ。」と言ったのかを考えて、発表カードに書き込む。	○ 「こいつは」が指している箇所を考えさせる。 ○ 兵十の後をつけるごんの様子から兵十との距離とごんの様子を読み取らせる。
		二組 本時 4 書き込んだことをもとに、話し合う。 (1) 兵十と加助の話を聞きたくてつけていくごんの姿を話し合う。 (2) 「おれ」の繰り返しや、「引き合わないなあ。」の文末表現に着目してごんの様子を話し合う。	※ 引き合わないなあ文末表現に着目させ、ごんの様子を発表カードに書かせる。 ※ 「おれ」と3回くり返されていることに音読を生かして気付かせ、ごんの様子を表現させていく。
		5 本時学習のまとめをする。	○ 「～引き合わないなあ。」の文を音読させ、自分の読みを表現させる。
		1 本時のめあてを確認する。	○ 学習計画表で本時のめあてを付ける。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ごんがどんな気持ちでぐったりと目をつぶったままうなずいたのかを考え、ごんのひとりぼっちなさびしさを読み確かめよう。</p> </div>	
		13 2 6の場面を音読する。	○ 音読で本時の学習場面を確認する。
		14 3 ごんがどんな気持ちでうなずいたのかを考えて、発表カードに書き込む。	○ 「ごん、おまいだったのか、いつも、くりをくれたのは。」を音読させることで文の倒置に気づかせる。
		15 4 書き込んだことをもとに、話し合う。 (1) 「ごん、おまいだったのか～」から、兵十の驚きを話し合う。 (2) ごんは、何にうなずいたのか、なぜうなずいたのかを兵十の会話文とつないで話し合う。	※ ぐったりと目をつぶったままうなずいたごんの様子を書かせる。 ※ ごんがどんな気持ちでうなずいたのか、グループで交流させる。
		5 本時学習のまとめをする。	○ 「ごん、おまいだったのか～」 「ごんは、ぐったりと～」の文を音読させ、自分の読みを表現させる。
		1 本時のめあてを確認する。	
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「ごんぎつね」の読みのまとめと読み方のまとめをしよう。</p> </div>	
		2 読みのまとめをする。	
		3 読み方のまとめをする。	○ 題名の意味や、ごんの様子について考え、書きまとめさせる。
ま と め る	15 / 15		

## 第4学年 国語科学習指導案

5 本時 10 / 15

### 6 本時の目標

- ひとりぼっちになってしまった兵十に自分の境遇を重ね、いたずらに対するつぐないの気持ちと兵十を喜ばせたいという気持ち及びその気持ちの変化を話し合い、ごんのさびしさを読み確かめることができる。
- ◎ 発表カードを使って、自分の読みを発表したり、友だちの読みとの共通点・相違点に気付いたりすることができる。

### 7 学習を進めるにあたって

本時は、いたずらに対して、何度も何度もつぐないをくり返すごんの気持ちと兵十を喜ばせたいという気持ち、及びその気持ちの変化からごんのさびしさを読み確かめることをねらいとしている。

前時に子どもたちは、「『おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。』」「次の日も、その次の日も、ごんは、くりを拾っては兵十のうちへ持ってきてやりました。その次の日には、くりばかりでなく松たけも二、三本、持っていきました。」を中心に、ごんの気持ちを発表カードに書き込んでいる。そこで、本時学習にあたっては、まず学習計画をもとに、本時のめあてと3の場面をどのように読み確かめるかを意識づける。また、学習場面を音読で確かめ、本時の話し合いの進め方と話し合いの仕方を確認する。話し合いの前に、前時の書き込み（発表カード）に目を通して、交流が出来るように、話し合いの展開を組み立てておく。次に中心文を音読し、ごんの気持ちを読み確かめていく。一つ目の「『おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。』」から「おれと同じ」「ひとりぼっちの兵十か。」と言ったのはなぜかを話し合い、兵十の気持ちに寄り添おうとするごんの思いを読み確かめられるようにする。次にごんのつぐなう気持ちについて、2の場面のいたずらを反省し後悔しているごんを想起させながら話し合いをさせる。二つ目の「次の日も、その次の日も、ごんは、くりを～持ってきてやりました。その次の日には、くりばかりでなく松たけも～持っていきました。」から「次の日も、その次の日も」と何日も何日もくりを持って来たのはなぜかを話し合うことで、兵十へのつぐないの気持ちが強いことを捉えさせる。また、「持ってきてやりました。」に着目させ、くりを持ってくることを続けているごんの気持ちは、「つぐない」のためだけなのかについて話し合わせ、「兵十を元気づけてやりたい」という気持ちになってきていることを捉えさせる。そして、「くりばかりでなく松たけも」に着目させ、兵十を喜ばせたいという気持ちにもなっていることに気づかせる。最後に、「次の日も、その次の日も、～」を音読し、自分の読みを表現させた後、板書をたどりながら学習をふり返りさせ、読み取ったごんのさびしさを書きまとめさせる。また、ごんと兵十の心理的な距離を板書で表しごんと兵十の関係を視覚的に捉えさせていくようにする。

### 8 板書計画

人物の気持ちの動きを  
「ごんぎつね」  
新美 南吉

学習のめあて  
ごんはどんな気持ちで、何日も何日もつぐないを続けたのかを考え、ごんのひとりぼっちのさびしさを読み確かめよう。

兵十

おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。

家族がいない  
かわいそうだな。

いつもひとりぼっち さびしいだろうな。

兵十のうちをうら口から、うちの中にいわしを投げこんで…うなぎのつぐないに、まず一つ、いいことをした。

次の日には、ごんは山でくりをどっさり拾って…

兵十のうちへ行きました。「ぬすびと思われて、ひどい目に…」  
かわいそうなことをしてしまいました。

兵十のうちへ


ごんは、くりを拾っては兵十のうちに

兵十を元気づけてやりたい。  
持ってきてやりました。


その次の日には、くりばかりでなく、松たけも二、三本、持っていきました。

学習のまとめ  
いたずらをつぐなう気持ちが兵十を喜ばせたい気持ちに変わった。だから、くりばかりでなく松たけも持って行った。それはずっとひとりぼっちだったごんのさびしさがあつたからだ。

ひどい目にあわされた



ぬすつとぎつね



9 本時の展開

配時	主な学習活動と内容	指導上の留意点（※伝え合う力を育てる支援）
5	1 前時を想起し、本時のめあてを確認する。	○ 学習計画をもとに、どのように読みを確かめるかを確認させる。
<p>ごんはどんな気持ちで、何日も何日もつぐないを続けたのかを考え、ごんのひとりぼっちのさびしさを読み確かめよう。</p>		
15	2 3の場面を音読する。	○ 音読で本時の学習場面を確認させる。
15	3 中心文を読んだ後、前時の書き込みをもとに話し合う。	○ 前時に書かせた発表カードに目を通して、話し合いの展開を組み立てておく。 ※ 本時学習の進め方と話し方、聞き方を確認し、自分の読みとその根拠が明らかになるように発表カードをもとに発表させる。
15	(1) 『おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。』と言ったときのごんの気持ちを話し合う。 ○ 「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」と言ったのはなぜか。 ・ 家族がいないから。・ 自分と同じひとりぼっちになってしまったんだ。・ ひとりぼっちになってさびしいだろうな。	○ 「おれ」である「ごん」の境遇を想起させながら、一人になってしまった意味を考えさせる。
15	(2) ごんのつぐないについて話し合う。 (3) 「次の日も、その次の日も、ごんは、くりを拾っては兵十のうちへ持ってきてやりました。その次の日には、くりばかりでなく松たけも二、三本、持っていきました。」について話し合う。	○ 2の場面の穴の中で兵十へのいたづらを反省し、後悔するごんを想起させる。 ※ 中心文を音読し、「次の日、その次の日も」など「次の日」がくり返されているところに着目させ、ごんの償いの気持ちが強いことに気付かせる。
10	○ なぜ、何日も何日もごんは償いを続けたのかを話し合う。 ・ 兵十にわびたい。 ○ くりを持ってくることを続けているごんの気持ちは、同じかどうか話し合う。  ○ 「くりばかりでなく松たけも二、三本、持っていきました。」について話し合う。	○ 「うなぎのつぐないに、まずいいことをした。」という文に着目させ、償いの気持ちが強いことを捉えさせる。 ○ 「持ってきてやりました。」に着目させ「つぐない」のためだけなのかについて話し合わせ、「兵十を元気づけてやりたい」という気持ちが強くなってきていることを捉えさせる。 ○ 「松たけも」について着目させ、兵十を喜ばせたいという気持ちになってきていることに気付かせる。 「次の日も、その次の日も、ごんは、くりを～ その次の日には、～松たけも二、三本、持っていきました。」を音読させ、自分の読みを表現させる。
10	4 本時学習のまとめをする。 (1) 本時の学習で読み確かめたことをまとめる。 (2) 今日の学習をふり返る。	※ 板書をたどりながら学習をまとめていく。 ※ 自分の読みが誰のどんな読みや話し方によってどう深まったのかを観点とし書きまとめさせる。 ○ 自己評価欄を設け、学習をふり返らせる。
<p>いたづらをつぐなう気持ちが兵十を喜ばせたい気持ちに変わった。だから、くりばかりでなく松たけも持って行った。それはずっとひとりぼっちだったごんのさびしさがあったからだ。</p>		

## 第4学年国語科学習指導案

5 本時 12 / 15

### 6 本時の目標

- 自分のつぐないに兵十が気付いていないことを知ったごんの姿をもとに気持ちを読み取り、何とか兵十にわかってほしいと願うごんのひとりぼっちのさびしさを読み確かめることができる。
- ◎ 発表カードを使って、自分の読みを発表したり、友だちの読みとの共通点・相違点に気付いたりすることができる。

### 7 本時学習を進めるにあたって

本時は、兵十と加助の話聞き、自分のつぐないに兵十が気付いていないことを知ったごんの姿をもとに気持ちを読み取り、ごんのひとりぼっちのさびしさを読み確かめることをねらいとしている。

前時に子どもたちは、「おれがくりや松たけを持って行ってやっているのに、そのおれにはお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃないか、おれは引き合わないなあ。」を中心に、ごんの気持ちを発表カードに書き込んでいる。

そこで、本時学習にあたっては、まず学習計画をもとに、本時のめあてと、4・5の場面をどのように読み確かめるかを意識付ける。また、学習場面を音読で確かめ、本時の話し合いの進め方と話し合いの仕方を確認する。話し合いの前に、前時の書き込みに目を通して、どの子も発言できるように計画を立てておく。

次に、中心文に至るまでの、「つけていきました」「ついていきました」「かげをふみふみ行きました」のところから、どんどん兵十との距離が近づいていることに気付かせる。中心文についての話し合いでは、1つ目には、指示語の「こいつ」と兵十の「うん」をつないで、自分のつぐないに兵十が気付いていないことをごんがつまらないと感じていることに気付かせる。2つ目の、「～引き合わないなあ。」のところでは、音読を生かして「おれ」と3回くり返されているところに気付かせ、グループ交流をして、自分のことに気付いてほしいというごんの強い思いに気付かせる。また、「つまらないな」と「引き合わないな」を比べさせて、ごんの思いの違いを読み取らせる。その時に、3の場面のごんの姿とつないだり、「なあ」という文末表現に着目させることで、ごんの無力感にも気付かせる。


最後に、「～おれは引き合わないなあ」を音読し、自分の読みを表現させ、中心文から読み取ったことから、ごんの気持ちの奥に、自分のことに気付いてほしいというさびしい心があることを書きまとめさせる。

また、ごんと兵十の心理的距離を板書に表し、ごんの気持ちの動きを視覚的にとらえさせていくようにする。

### 8 板書計画

人物の気持ちの動きを  
ごんぎつね  
新見 南吉

めあて  
ごんがどんな気持ちで「引き合わないなあ」と言っているのか考え、ごんのひとりぼっちのさびしさを読み確かめよう。



兵十

4  
ごんは、道のかた側にかくれてじっとしていました。  
二人の後をつけていきました。  
兵十はどう思っているの。

5  
二人の話聞くことと、思っていることについて話したいから近づいてきた。  
すごく近い。見つかるかも。でも自分の名が聞きたい。  
兵十のかげぼうしをふみふみ行きました。

「うん。」  
兵十は、神様のしわざだと納得した。

「だから、毎、神様にお礼を言いたいよ。」

「へえ、こいつはつまらないな。」  
おれがしたと気づいてくれないなんて、こんなにいいことをしているのに、おれがくりや松たけを持って行ってやるのに、そのおれにはお礼を言わないで、神様にお礼を言うんじゃないか、おれは引き合わないなあ。」  
神様じゃなくて自分なんだ。強い気持ち。この後のごんは…

「何とか兵十に自分のことに気づいてほしい」「おれが持つて行っているのに気づいてくれないなんて」というごんのひとりぼっちのさびしさ

9 本時の展開

配時	主な学習活動と内容	指導上の留意点（※伝え合う力を育てる支援）
2	1 本時のめあてを確認する。	○ 学習計画をもとに、どのように読み確かめるかを意識付ける。
<p>ごんがどんな気持ちで「引き合わないなあ」と言っているのか考え、ごんのひとりぼっちのさびしさを読み確かめよう。</p>		
2	2 4・5の場面を音読する。	○ 音読で本時の学習場面を確認させる。
6	3 中心文に至るまでのごんの姿をもとに、ごん の気持ちを話し合う。 ・ 自分がくりや松たけを持って行っていると気づいてくれるかな。 ・ 自分の名前を言ってくれるかな。	○ 前時の書き込みに目を通して、話し合いの展開を組み立てておく。 ※ 本時学習の進め方と、話し方・聞き方を確認し、自分の読みとその根拠が明らかになるように、発表カードをもとに発表させる。
25	4 「おれがくりや松たけを持ってきてやっているのに、～おれは引き合わないなあ。」に書き込んだことをもとに、ごん の気持ちを話し合う。 (1) 「こいつ」が指している箇所は何か、何でつまらないと言っているかを考える。 ・ 神様がしたと思ってるなんてがっかり。 (2) 「引き合わないなあ」と言ったのはなぜか考える。 ・ 毎日毎日これだけつぐないをしてきたのに。 ・ おれがしているって分かってもらえてないなんて。 (3) 「おれ」と3回もくり返して言っている意味を考える。 ・ 自分の存在に気付いてほしい。 ・ 何で分かってくれないのかという強い気持ち。 (4) 文末の「なあ」について考える。 ・ 気付いてくれたと思ったのにそうじゃなかった。 ・ がっかりしている。	○ 「つけていきました」「ついていきました」「かげをふみふみ行きました」のところから、どんどん兵十との距離が近づいていることに気付かせる。  ○ 指示語の「こいつ」と兵十の「うん」をつないで、自分のつぐないに兵十が気付いていないことをごんがつまらないと感じていることに気付かせる。 ○ 3の場面の何日も何日も償いをしたごんの姿をつないで、ごんの思いに気付かせる。 ○ 「引き合わないなあ」と「つまらないな」を比べて、ごん の思いの違いに気付かせる。 ※ 「おれ」と3回くり返されているところに着目させ、ごん のどんな気持ちの表れなのかグループで交流させ、自分のことを気付いてほしいというごん の強い思いに気付かせる。 ○ 引き合わないなあ の文末表現に着目させ、ごん の無力感に気付かせる。 ○ 「おれがくりや松たけを持ってきてやっているのに、～おれは引き合わないなあ。」を音読させ、自分の読みを表現させる。
10	5 本時学習のまとめをする。 (1) 本時の学習で読み確かめたことをまとめる。 (2) 今日の学習で書きまとめる。	※ 板書をたどりながら学習をまとめていく。 ※ 自分の読みが、誰のどんな読みや話し方によってどう深まったのかを観点とし書きまとめさせる。 ○ 自己評価をさせ、学習をふり返らせる。
<p>「何とか兵十に自分のことに気づいてほしい」「おれが持って行っているのに、気づいてくれないなんて」というごん のひとりぼっちのさびしさを</p>		